

茅 野 市

1 地域の概要

[位置および立地条件]

- 県中央部、諏訪盆地の東端に位置する。
- 標高が 750 ~ 1200m と高く、気候は冷涼である。

[農業構造]

- 農家数（2000 年センサス）は、総数 2,964 戸、うち販売農家 1,939 戸。専兼業別では専業 321 戸、第 1 種兼業 273 戸、第 2 種兼業 1,345 戸である。
- 耕地面積（平成 16 年調査）は 2,630 ha で、うち田 1,600ha、畑 1,030ha（うち樹園地 24 ha）である。
- 主な作目は、水稻（平成 16 年 874ha）、野菜（キャベツ、ダイコンなど）、花き（カーネーション、トルコギキョウ）などである。

[振興方向]

- 「担い手の育成」「環境保全型農業の実現」「地域営農組織の確立」を 3 つの柱と位置づけ、農業の再生に向け推進していく。

[J A]

- J A 信州諏訪（農地保有合理化法人）

[支援センター]

- 「茅野市農業支援センター」が市役所農林課内に設置され、J A から 1 名、開発公社から 1 名が専属として配置されている。
- H16 年度に農業者自らが茅野市農業の活性化についてまとめた「茅野市農業マスタープラン」に基づき、地域営農システム推進、環境保全型農業推進、担い手育成の部会による推進委員会が組織されている。

2 GISの整備・取組み経過

[導入年度及び補助事業]

- 平成 12 年度
- 農地情報利用効率化対策事業 + 農用地利用調整特別事業

[導入方法]

- 遊休農地対策を目的に、農業委員会単独で「台帳システム」と「地図システム」を同時に導入
- 事業の中で、「地番図」と「航空写真図」を整備
- 住民基本台帳と固定資産土地台帳を利用して農家・農地台帳を作成
- スタンドアローン型 1台

[管理主体]

- 農業委員会事務局

3 電子地図の管理等

[システムで利用される地図データ]

- システムは 地番図を基本として、必要に応じて 航空写真図を背景として重ねられるものとなっている。



地 番 図
(ベクトル)



航空写真図
(ラスタ)

4 維持管理

[地図データの更新]

- 年1回
- 農業委員会単独予算で、地図データ更新をおこなっている
- 業者委託

[農家・農地台帳データの更新]

- 年1回
- 住民基本台帳、固定資産土地台帳との照合をおこなっている
- 業者委託

5 システム活用事例等

[農業委員会としての利用]

- 農地貸付、転用申請時の位置確認。
- 遊休農地調査結果を GIS で管理するとともに、遊休農地管理地図帳を作成している。
- 違反転用農地の調査結果を管理し、農業委員の指導に利用している。

[その他の利用]

- 必要に応じて「支援センター」へ白地図を提供している。

[その他]

- 「生産調整」: 別システム (GIS ではない) で管理
- 「農業振興地域」: GIS では管理していない
- 「中山間地域等直接支払制度」: GIS では管理していない

6 導入効果と今後の課題

[効果]

- 農業委員 27 名と補助員約 70 名を動員し、遊休農地、違反転用農地等の農地パトロール報告書の内容を地図に落としたことにより、不在地主が多いこともあり、遊休農地が増えている現状を正確に把握できた。
- 遊休荒廃地化農地実態調査結果の地図を利用して、対象農地の雑草除去指導等、農業委員の具体的な行動につながっており、併せてその解消に効果を上げている。

[課題]

- ほ場整備事業が入っているため、従前地、仮地番の部分で、不整合が発生している。確定測量、換地処分が終了する段階で再度データの整合性の確認が必要となる。
- 農業委員会の単独予算としては高額な費用をかけており、地番図、航空写真データの整備がおこなわれたことを考慮すると、「支援センター」を核とする関係機関との情報の共有化をおこない、GIS 活用の更なる効果を発揮させることを検討するべきである。



茅野市 GIS システム



遊休農地調査結果地図（左側は地番図に遊休農地を色塗りされたもので、右側は同じ場所の航空写真図に色塗りされたもの）

調査者：小澤 克巳（地域農業経営戦略研究会代表理事）